

第2回 宇都宮市東部地域渋滞対策協議会

議事概要

1 日時

令和4(2022)年9月2日(金) 14:00~15:15

2 場所

栃木県庁 本庁舎 15階 会議室5

3 出席者

別紙「出席者名簿」のとおり

※議事に先立ち、人事異動に伴い改選した委員の紹介を行い、篠田委員及び吉田委員を協議会監事に選出した。

4 議事

(1) 令和3年度社会実験の結果について(資料1)

(2) 令和4年度事業内容について(資料2)

5 議事概要

- ・本田技研工業(株)から令和3年度社会実験の結果について説明し、質疑応答及び意見交換を行った。
- ・事務局から令和4年度以降の社会実験予定を説明し、質疑応答及び意見交換を行った。

6 主な質疑・意見

(1) 令和3年度社会実験の結果について

○谷委員

- ・社会実験の結果として、実施した渋滞対策の効果として旅行速度や渋滞長の変化に関する分析は行わないのか。

(事務局)

- ・今回協議会で本田技研工業(株)でのデータ分析の結果を主に説明したが、最終的な報告書の作成に向けては、渋滞対策の効果についても確認したいと考えている。

(福森委員)

- ・旅行時間の分析には協力できる。

- ・交通量分析について、ホンダ車のデータだけではデータ取得量が少ないため難しいとのことだが、そこを乗り越えるためにはどうしたらよいか。

(福森委員)

- ・ホンダの関係施設が多い宇都宮市では、全体交通量に占めるホンダ車の割合が高く、かつ通勤帰宅の時間帯によりホンダ車の割合が極端に異なるため、データの変動が大きくなる。このため、1か月間の平均であれば平準化されるが、18時台などピンポイントの分析は難しい。宇都宮市以外の地域であれば基本的にはホンダ車のデータだけでも十分分析できると考える。

○長田会長

- ・今回の分析期間は LRT の工事など色々な要素が含まれているので、工事が落ち着いている今の時期や今後 LRT 開通後の状況と比較できるとよい。
- ・また、予測モデルが 15 分後の旅行時間をプラスマイナス 1 分精度で構築されたが、今後どのような活用が考えられるか。

(福森委員)

- ・LRT 完成後の交通量がどう変化するかきちんと確認していきたい。
- ・予測モデルについては、LED 表示板で提供する目的地までの旅行時間に関する予測情報の精度を高められると考えるが、予測情報の提供については警察とも調整が必要となる。

(2) 令和 4 年度事業内容について

○事務局

- ・今後社会実験を進める上でユーザーの声を反映するために新規協議会委員を加えることで調整したい。

○篠田委員 (代理：矢野氏)

- ・LRT 開業に向けて、試験運行や習熟運転の仕方など、優先して調整していかなければならないことがある。社会実験の実施にあたっては十分な調整をお願いしたい。

(事務局)

- ・特に交通規制が伴う事項については早めに調整していきたい。

(沼野委員 (代理：國見氏))

- ・信号機制御はおおむね完成しているが、LRT 専用信号について一部調整が残っている

ので、今後の調整のタイミングについては連絡を密に取っていききたい。

○吉田委員

- ・社会実験の成果を維持も含めてどこまで実装していけるかを考えていく必要があるのではないかと。CCTV カメラでリアルタイムの状況を確認し、問題にどう対処していくかが大切である。LRT 開業当初は予測できないことも多いと思われる。
- ・社会実験の成果取りまとめに当たっては、例えば、交通状況を考えた場合、LRT 導入前とするのか、もしくは工事中とするのか、渋滞対策によるサービスレベルをどのような交通状況を目指して考えるかがポイントではないか。社会実験の中でデータも確認しながらトライアルしていくことが必要と考える。
- ・道路利用者の利用経路変化についてどう考えるか検討した方がよい。
- ・道路利用者が工業団地関係者と関係者以外とでは、データの取り方が変わってくるので、事前準備は十分していく必要がある。

(事務局)

- ・CCTV カメラの設置数は可能であれば並行路線への設置も含めて増やしたいと考えている。
- ・サービスレベルについては、物理的に車線数の減少していることを踏まえた場合、LRT 導入前の交通状況を目指すというよりも、新たに渋滞ポイントが生じないように工夫することが重要と考える。
- ・道路利用者の利用経路の変化については、今後の道路計画を検討する中で必要と考えており、様々な情報を収集した上で必要であれば経路まで確認していきたい。
まずは、断面交通量の変化を確認することが必要と考える。

○長田会長

- ・事務局から説明された来年度以降の社会実験の内容は、現時点で国への申請している段階の内容であり、確定はしていないという認識でよいか。

(事務局)

- ・そのとおりである。

○谷委員

- ・全国他都市に向けたモデルケースとする前に、LRT の定時運行確保や公共交通との連携により東部地域の交通体系がうまくいくことを確認することがまずは必要と考える。